



大阪部会(第19回)

日時: 2010年6月12日(土) 18:00~20:00

場所: 同志社大学 大阪サテライト

【内容要旨】

- (1) 第19回の部会は11名の参加者で開催された。まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表から、5月27日に開かれた教科書編集担当者との懇談(提案と意見交換)の報告があった。
- (2) 入試問題プロジェクトの進行状況が紹介された。8月の全国高等学校社会科研究会、9月の経済教育学会でも、当ネットワークでの検討内容をもとに講演および議論が行われる予定である。このプロジェクトは、2010年度入試問題を使って、今年も継続される。「よりよい入試問題とは何か」について共通認識をもつことは難しいが、何らかの基準をもって、よい入試問題の例を提示することが必要との意見があった。
- (3) 今後の予定について、8月の金融倫理に関する国際会議の紹介、全国各地での予定されているワークショップの候補地の紹介があった。なお、ネットワークの活動体制に若干の変更があり、ニュースレター、メールマガジンの発行を新井明氏(東京都立小石川中等教育学校)が支援することになった。
- (4) 東京証券取引所と共催の「先生のための『夏休み経済教室』」の詳細が確定し広報された。8月2日の名古屋を皮切りに、札幌、東京(中学)、大阪、東京(高校)と8月17日まで続けられる。
- (5) 高校教員からのニーズが高く、今後充実させる必要がある活動のひとつが、入試に出る概念・理論の解説である。余剰、GDPなどを例にとり、コンパクトに分かりやすく、しかし正確なまとめ方を検討した。
- (6) 当ネットワークが経済広報センターと作成した「企業で教える経済の仕組み」に対して意見交換し、いくつかのコメントが出された。住宅建築業者を題材に話を広げていくとき、家を作り上げるイメージをもたせるためにはビデオなどを使った事前学習をした方がよい、何千万という金額に中学生がリアリティをもつ工夫がある、この教材を学ぶことの面白さと達成感をもたせたい、などである。
- (7) その他
 - 学研との共同で作成したゲーム教材についても、今後大阪部会でひとつずつ検討する。
 - 教材作成およびホームページへのアップを進める。
 - ネットワーク自身が教科書を作成することも提案されている。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 9月25日(土) 18:00~20:00 同志社大学 大阪サテライト